

漆

そのあたらしい表現を巡って

青木千絵 青木洋介 吾子可苗 伊能一三
岩田俊彦 立岩朝子 早崎小夜子

2010

10月23日(土) - 11月23日(火)

喜多方市美術館

〒966-0094 喜多方市字押切 2-2

phone 0241-23-0404 facsimile 0241-23-0406

http://www.city.kitakata.fukushima.jp/bijyutsukan/



1



2



3



4



5



6



7

- 1 伊能一三 ベオののりもの(ぬめ)部分
- 2 立岩朝子 門「皮膚」
- 3 青木千絵 BODY 09-1
- 4 岩田俊彦 マツ
- 5 青木洋介 守箱 烏輪
- 6 早崎小夜子 木陰
- 7 吾子可苗 libido

「漆 そのあたらしい表現を巡って」

この展覧会では7人の若手漆造形作家、青木千絵（金沢市）、青木洋介（入間市）、吾子可苗（会津若松市）、伊能一三（金沢市）、岩田俊彦（鎌倉市）、立岩朝子（東京都）、早崎小夜子（東京都）の作品を紹介します。

「漆」というと何を連想するでしょう。漆の木そのものや箸や椀などの食器、あるいは漆黒と言われるつややかな美しい黒でしょうか。それとも蒔絵や螺鈿（らでん・光る貝の薄片をはめ込む技法）などの装飾をほどこした調度品でしょうか。

この展覧会で紹介するのは、これまでの一般的な漆のイメージを覆すような斬新で大胆、かつ繊細なデザインの作品ですが、その多くに古くからの漆の技法が生かされていて、伝統と革新の組み合わせの面白さが感じられます。

作品には、発泡スチロールなどの心材で形をつくり、その上に漆を接着剤にして麻布を貼り、漆で仕上げる乾漆技法が用いられているものがあります。これは古来から仏像づくりなどの技法として伝承されてきたものですし、またほかの作品も蒔絵や螺鈿などの伝統的な技法を用いながら、それぞれ独自の感性で「現代アートとしての漆の世界」を表現しています。

紹介する作品に共通しているのは、漆が持つ素材としての特性と深い艶の魅力を最大限に生かしていることで、それは漆でなければ出せない独特の造形美を生み、見る人を引きつけてやまない、息をのむような漆の美しさにもつながっています。

この秋、「会津・漆の芸術祭」（10月2日から11月23日）が喜多方市はじめ会津若松市、三島町、昭和村の各地を会場に開催されます。

あわせてぜひご覧ください。

2010 10月23日（土）-11月23日（火）

- ◆休館日 水曜日（11月3日は開館 4日休館）
 - ◆開館時間 午前10時～午後6時（最終入館は午後5時30分まで）
 - ◆観覧料

一般	300円	(250円)
大・高校生	200円	(150円)
小・中学生	100円	(80円)
- ※（ ）は20名以上の団体割引料金

◆お問い合わせ

喜多方市美術館

〒966-0094 喜多方市字押切 2-2
 phone.0241-23-0404 facsimile.0241-23-0406
<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/bijyutsukan/>

◇作家7人によるギャラリートーク

日時：10月23日（土）14：00～
 青木千絵、青木洋介、吾子可苗、
 伊能一三、岩田俊彦、立岩朝子、
 早崎小夜子
 場所：喜多方市美術館



◇ 駐車場 喜多方プラザ文化センターの駐車場をご利用ください

◇次回の展覧会のお知らせ

館蔵展

喜多方市美術館のコレクションを紹介します。
 '10 12月18日（土）-'11 1月23日（日）

休館日 水曜日
 年末年始（12月28日～1月5日）

開館時間
 10：00～18：00（最終入館は17：30）

観覧料
 一般300円 大・高校生200円 小・中学生100円